

## 第 29 期第 3 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 令和元年 8 月 1 日（木）14 時 00 分～16 時 00 分  
仙台市役所上杉分庁舎 12 階 教育局第 1 会議室
- ◎ 出席委員の氏名 遠藤仁委員、菊地崇良委員  
小林直之委員、今野広元委員  
新迫宏委員、菅原孝代委員、杉山秀子委員  
根岸一成委員、渡辺祥子委員、渡辺通子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 武者元子、市民図書館副館長 松島桂一  
泉図書館長 高橋三也、宮城野図書館長 柴田聡史  
太白図書館長 田中千代子、広瀬図書館長 相澤滋  
榴岡図書館長 今野宏、若林図書館長 山口宏  
市民図書館企画運営係長 早坂江美子、  
市民図書館奉仕整理係長 山田千恵美

### ◎ 会議の概要

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 議長を選出

仙台市図書館条例施行規則第 14 条第 3 項に基づき、遠藤仁会長が議長となった。

### 4 会議録署名委員指名

会長より、小林直之委員を指名。

### 5 協議事項

#### （1）平成 30 年度仙台市図書館事業報告書（案）について

（市民図書館副館長 説明）

資料にもとづき説明

#### 【方向性 1 地域や市民に役立つ図書館となるために】

議 長 今回の資料は、新規や拡充の事業について記号を付けており、大変分かりやすい。最終的な事業報告書では、これらの記号は削られるのか。

事 務 局 このまま残す方針である。

今野広元委員 資料の貸出冊数を 7 冊から 10 冊に増やしたということだが、どのような変化が表れたのか。10 冊まで借りる人が増えたのか、それともあまり変わらないのか。

事 務 局 児童書や絵本では、10 冊まで借りていく方が非常に増えているが、2 週間という貸出期限があるため、一般書では、借りる方の読む速さに応じた冊数を借りていただいている。全体的には、増加傾向が見られる。

議 長 10 冊というと大変な量になると思うが、市民図書館では本を貸す際に、利用者のマナーとして、袋などの持参を呼びかけているのか。

事務局 袋については、持参される利用者がほとんどだが、お持ちでないときは、使用済みの紙袋を提供することもある。

議長 方向性1については、網羅的に取り組んでいただいていると思う。後程、全体に渡って意見をいただくこととしたい。

### 【方向性2 0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館となるために】

議長 方向性2は、未来の読書人を育てるという意味で非常に重要な施策だと思う。質問や意見はあるか。

小林直之委員 ヤングアダルト世代への読書支援や、学校、家族、地域との連携は、書店ではなかなか手が届かない、図書館ならではの取り組みであると思う。小中学生向けの読書案内等を書店で見かけることは少ない。書店は、お客が自分で本を選んで好きな本を見つける場所であって、読書推進の取り組みができる場所ではない。ブックリストの作成や、学校に赴いてのアウトリーチ的な取り組みは図書館だからできることであり、これらの施策を継続していただきたいと思う。

議長 ブックトークは学校の利用が多いと思うが、電話での直接相談により派遣するという形なのか。仙台市図書館は昨年度140校にブックトークを行っているということは相当活用されており、力を入れて取り組んでいると感じる。

事務局 年度当初に、小学校に対して図書館の事業の説明とブックトークの案内をしている。各小学校から要望をいただき日程調整を行った上で職員を派遣している。主には各地区館が担当しているが、広瀬図書館や榴岡図書館も協力し7館で分担して対応しているところだ。基本的に仙台市内の小学4年生全員に対しブックトークを提供するという方針があり、全ての小学校に行っている。別の学年にも来てほしいなどのリクエストがあれば、個別に対応している。

議長 小学校全校を網羅されているということは大変素晴らしい。もっとPRしてもよい取り組みだと思う。

事務局 これはやはり仙台市として頑張っている部分であると思う。ブックトークで紹介した後は、お子さんの反応も良い。子どもの本離れは本と触れ合う機会が減っていることが大きいと考えており、ブックトークは大事な場と考えて継続していきたい。

議長 先日大学で、学校の先生にブックトークを普及するために、学校図書館の活用法としてブックトークの講習会を行うことにしたところ、募集後すぐに定員に達した。ブックトークは、発展学習として読書人を育てるのに有効であり、学校の先生方の潜在的なニーズがあると感じている。

渡辺祥子委員 方向性1も含めてだが、地域に開かれた活動に力を入れていることを読み取ることができた。方向性2では、きめ細かく学校なども回られていてよく人員が足りているなど思う。さらに今後の方向性を考える上で、図書館がもっとコーディネート能力を高めて地域のボランティアなど活動に関わる方を育てていってはどうか。図書館から派遣するのももちろんだが、養成講座の開催などを働きかけて、もっと地域に裾野を広げていくことも図書館に求められているのではないか。

また、本と親しむことが一つのツールになり、小さいお子さんのいるお母さん方の支援にもつながっていくと思った。今、子どもとなかなか向き合えない若い世代の親御さんが増えている中で、本を通じて、福祉の観点での役割を果たす場にもなるのではないか。それは図書館の本来の役割ではないかもしれないが、こういった場を作ることによって図書館の可能性が広がっていき、読み聞かせをする人や関わっていく人が育っていくことはとても大切なことだとこの報告書から感じた。

議 長 学齢期前の子どもは文字を持たないので、耳からお話を聞くが、それがやがて読書に結びつくと非常に効果的だ。渡辺委員は、小さいお子さんへの朗読やお話などの活動はなさっているか。

渡辺祥子委員 大人の方が耳だけで想像力を豊かにしていただくことが多い。要請があれば小さいお子さんも対象にする。お子さんが対象のときはお母さんと一緒に聞いてもらう。一緒に聞いてもらうことで、お話をきっかけにお母さんがお子さんに語りかける。その場が大変大事だと思っている。0歳から読書に親しめるというのは、そういうことだと思った。

議 長 基本的に子どもはお話が好きなので、音声言語を耳から聞いて楽しいと思う段階から、スムーズに親しめるよう進むとよいと思う。しかし、小学校に入学すると文字を学習させるので、範読する際にも、どうしても子どもたちに教科書の文字を追わせてしまう。私は、音声言語で本に興味を持たせてから、文字で親しませる段階へとうまく連続性が保てていない気がしている。そこをどうやって図書館が中心になり結びつけていくかとの課題意識を持っている。

渡辺祥子委員 マドリードの日本人学校での活動の話だが、わざと「文字も絵もないので皆の心に絵を描いて」と説明をした時に、小学生の男の子が、「そんなことはできるわけがないと思ったけど、聞いていたらしっかり自分の中に絵が描けて驚いた。これからは自分の中でいろいろな絵を描きながら本を読みたい」と話してくれた。元々本が好きな子もいろいろなアプローチの仕方では世界が広がっていくのだと思う。

杉山秀子委員 私は授業で素話の活動をしているが、小学1年生でも15分～20分のお話を聞くことができる。活動の際には必ず出典を示しているのですが、そのまま図書室につながってもいる。環境を整えば、4歳くらいから絵本がなくともお話が聞けるようになるのだが、2～3歳ではまだ語彙数がなく難しく、絵本と一緒に楽しむおはなし会がよい。既に図書館でも取り組まれていると思うが、小学校対象に本がないおはなし会を広げていただくと良いと思う。子どもたちが実際に本を見たときに、「こういう絵だったのか」と、自分でイメージした絵と挿絵が違うことがある。別な本をしてみるきっかけにもなる。今後図書館では、絵本のおはなし会だけでなくおはなし会を広めて進めていただければ嬉しい。

議 長 仙台市図書館では、おはなし会は結構取り組んでいるのか。

事務局 先ほど、図書館の職員が全てのブックトークに行くのは大変ではないかとの質問をいただいたが、図書館ではボランティアグループを養成しており、基本的に小学4年生には図書館の職員が行くが、他の学年はボランティアグループのランプさんにもお手伝いをいただき大変活躍いただいている。わらべうたなど手遊びを交えたおはなし会は、赤

ちゃんや小さい年齢のお子さんでも楽しむことができ、市内で活動する文庫の方々や市民の方々に話し手として活躍をいただいているところだ。今、おはなし会へのお父さんの参加が非常に増えてきて、貴重な親子のふれあいの場ともなっている。また、昨年度初めて妊娠期の親に対しておはなし会を行った。言葉の獲得や本に親しむ部分で、図書館が果たす役割は大きく、親子の触れ合いを通じて、将来の読書人を育てることにつながっていくと思う。

議 長 非常に重要な施策なので、引き続き進めていただき、将来的にも効果を検証していただきたい。

### 【方向性3 市民一人ひとりに利用しやすい図書館となるために】

議 長 ただいまの方向性3で、サービススポットは好意的に迎えられているようだが、効果はあったか。後程説明があるようだが、他にはいかがか。

杉山秀子委員 14ページの「障害のある人へのサービスの充実」の中で、宮城野図書館が「日本点字図書館に施設登録をした」とあるが、今は宮城野図書館1館だけで行っているのか。

事務局 仙台市の図書館7館の代表として宮城野図書館が登録を行っている。デジ資料の作成などは宮城野図書館が行い、要望があれば、各図書館でも利用できる。

杉山秀子委員 近くの図書館で利用できるのは、便利だと思う。

### 【方向性4 自らの変革を進める図書館となるために】

議 長 人材の育成などいろいろ難しい問題はあるが、この方向性4について皆さんの意見を頂戴したい。

小林直之委員 図書館で働く皆さんのスキルアップは、いわば基盤整備となる。変革を続ける図書館というのはなかなか難しい課題だが、図書館のスタイルが変わってきている中で、このように仙台市図書館の基盤整備をしっかりやっていくという部分を強く支持したい。ぜひ積極的に研修等々に参加して、その結果を市民にフィードバックしていただきたい。

### 【課題改善策】

議 長 今年度あるいは次年度以降に引き継ぐようなことでもかまわないので、課題改善策について意見はあるか。

今野広元委員 ヤングアダルト向けだけではないのだろうが、仙台市図書館のツイッターを始めたということだ。中高生はSNSをよく見る世代であり、掲載記事の表題の中には、中高生が興味を持ちそうな内容も入っている点は良いと思った。そこで今後は、ターゲットを絞り込む方が良いのではないか。「いじめ」の問題もこれからの課題と思うが、ツイッターで取り上げることにより、悩んでいる子どもたちが見るかもしれない。図書館と本と子どもたちとのつながりを保つために良い発信ツールだと思うのでこれからも工夫していただきたい。

新迫宏委員 施策(3)「図書館資源を適正に配分し、有効に活用します」の中での「雑誌スポンサー制度」はどういうものか。この実績は、どのように評価し、どう位置付けられるの

か。新規事業だが、今後どういう風に進めて行くのか。広告企業は地元企業か。

事務局 雑誌スポンサー制度は、各図書館にポスター広告を掲示するスペースと、雑誌カバーに広告シールを貼るスペースを設け、広告を掲出して収入を得る制度である。現在これらの広告枠をすべて埋めているので、目標は満たしている。広告企業は、不動産会社やタイヤショップなどの4社で、地元企業である。

新迫宏委員 広告料は支払われているのか。

事務局 広告料は支払われており、仙台市の歳入となる。これまで、図書館としての収入はなかったもので、全体の中では小さな額だが、大きな一歩である。雑誌の購入費用に充当する位置付けである。他都市でも、広告について先進的なところもあり、我々もそれを参考にやらせていただいている。

新迫宏委員 図書館の新しい動きであり、非常に興味深い。

菅原孝代委員 様々な活動をしていることが十分に分かった。「どこにいても情報が身近に届くサービスの充実」をモットーにやられているのが、素晴らしい。ブックトークの効果は、普段読まないジャンルの本との出会いである。読書をする子も自分の好きなジャンルは決まっているが、ブックトークはいろいろなジャンルの本に目を向けるととても良い読書の入口だ。全く読書をする習慣がない子どもにとっては、読書をする時間があることと、身近に本があることが必要だ。読書は自分で関わっていこうと思わないとなかなか続かない作業だが、今、スマートフォンや動画などの刺激が強く、すぐに興味関心を満たしてくれるようなものがあふれている中で、自分で読み進めてじっくりと分かっていく読書に目を向けさせるには、やはり出会いが大事と感じている。ブックトークやおはなし会などの企画も小さい頃の本との出会いにつながっており、このような図書館の活動をきちんと学校の先生方や保護者の皆様に伝えていきたいと思う。子どもたちが本を読むようになるには、やはり家庭で小さい頃からどのように本と向き合わせたかという体験が必要であり、子どもの読書習慣を形成していくためには、本を読むとこんな良いことがあると、親世代に分かっていただくと良いと思う。

また、学校現場の状況であるが、4年生以外の学年でもブックトークや読み聞かせの時間を取りたいと思っても、授業時数の関係で大変難しい現実がある。私たちも働き方改革を進めなければならないが、こういった状況はお伝えしておきたい。

なお、中田サービススポットの運営の工夫は興味深い。私自身もサービススポットに足を運んでみたいと思った。

事務局 小さい頃からの読書習慣と親世代へのアピールということでは、例えば妊娠期の父母、プレママ・プレパパを対象にした取り組みを始めたところだが、お腹の中の赤ちゃんがお話に反応したなど、参加した親御さんも喜ばれているとの報告を受けている。赤ちゃん向けのおはなし会でも、お子さんが紙芝居や絵本に夢中になっている姿を見て、親御さんが喜ばれているという状況が見られている。

議長 図書館と教育現場がどのように連携しながら小学生の読書を推進するか。やはり幼少期に読まなければ大人になっても図書館に足を運ぶことはないだろう。本協議会でも、学校貸出しのあり方や貸出返却のあり方など教育現場の声に基づいて、サービスを拡充

してきているので、今後も小学校の図書館部会の声を届けていただきたいと思います。

それでは、これまでいただいた委員の皆さんの声を取りまとめて、次回の協議会までに公表する運びとしたい。取りまとめについては、事務局と私にお任せいただきたい。

各 委 員 了解。

## 6 報告事項

### (1) 令和元年度仙台市図書館要覧の速報値について

(市民図書館副館長 報告)

資料にもとづき報告

議 長 各図書館が工夫を凝らして様々な事業を展開し、インターネットによる予約も2万件ぐらい増えているとのことだが、ただいまの報告に関して委員の皆さんから質問や意見はあるか。

イベントがあると必ず駐車場の問題などが出てくるが、いかがか。駐車スペースについて利用者の声などがあるか。

事 務 局 仙台市の図書館は便利などところにあるため、無制限で駐車できる施設は少ない。割と融通がきくのが広瀬図書館だが、他の図書館は、文化センターの中にあるなど、併設の駐車場があっても最初の30分間が無料の施設とそうでない施設があり、様々である。基本的に利用者の方には公共交通機関の利用や、もちろん駐車料金のご負担もお願いしている。窓口で「30分しか駐車できないので急いでほしい」との要望をいただくことがあるが、丁寧にご案内をしている。

議 長 この件に関してはよろしいか。

各 委 員 了解。

### (2) 開館時間繰り上げの実施について

(市民図書館館長 報告)

資料にもとづき報告

議 長 ただいまの報告に関して委員の皆さんから質問や意見はあるか。

職員のやり繰りはどうか。協議会でも意見が出ていたものがこのような形で実現したが。

事 務 局 利用者サービスの向上のため、職員も様々な工夫や努力を積み重ねてここまで来ることができた。引き続き対応していきたい。

議 長 この件に関してはよろしいか。

各 委 員 了解。

### (3) 仙台市図書館ツイッターの開始について

(市民図書館館長 報告)

#### 資料にもとづき報告

議長 どのように情報を効果的に届けるかという議論を協議会としても重ねてきた結果、実現した。情報の管理の問題など難しいこともあるが、一定の効果が得られているということだ。アクセスしてみた感想でもよいので、委員の皆さんから意見があれば。

小林直之委員 プロフィールを大変上手に書かれている。発信する情報材料を絞ったことと、いわゆる双方向の対応はできないことをはっきりと書いた点がよかった。ツイートを読んでも常に写真・画像を付ける工夫がされている。基本的に写真や画像がないと、字だけの情報では読まれないのが現状であり、必ず写真を付けると表示画面も大きくなり効果的になる。固定されるツイートにも写真を付けると良いと思う。

渡辺通子委員 ホームページを開設してから何年になるか。

事務局 平成13年4月に開設し、18年目になる。

渡辺通子委員 ホームページを上手に使っている印象はあるが、PRの仕方を工夫することが課題だと思う。今回の開館時間の繰り上げももっと大々的にPRしてもいいのではないか。また、例えば図書館の裏方の仕事を画像や動画で紹介すれば、早い時間に開館できない理由が伝わることもあるのではないか。次の協議会までホームページやツイッターを委員の皆さんで見てください、意見を出し合えばもっと面白くて良くなると思う。

議長 この件に関してはよろしいか。

各委員 了解。

### (4) 中田サービススポットの運営状況について

(市民図書館館長 報告)

#### 資料にもとづき報告

議長 アンケート回答者の年齢だが、比較的若い世代や社会で活躍している忙しい世代が多いのは想定していなかった。

事務局 利用される方は、比較的若い方や子育て世代の方が多く、日曜日の利用が最も多くなっている。ファミリー層に好評の事業だと思う。インターネットの予約件数が増えている影響もあるかもしれない。我々も、もう少し年齢の高い層が利用すると想定していたが、そうではなかった。

議長 もともと要望の高い地域に開設し、非常に成果が上がっているとの印象を持った。引き続きサービスの拡大に努めていただくということによろしいか。

各委員 了解。

## 7 その他

(市民図書館長 説明)

### 配付チラシについて説明

議	長	次回の協議会の日程について事務局からご提案願う。
事	務	事務局から次回の協議会の日程について連絡。
議	長	以上で議事を終了する。

## 8 閉会